

6-1 【湯沢市、40代】

出産、特に不妊治療についての意見です。

『子供が欲しいのに中々できない』

という方が全国的にとっても多くなりました。

そういう方は、一般的には病院での不妊治療を勧められたり、実際にいたりすると思います。

が、渦中にいる方や経験者の方は、誰一人楽しそうでもないし、心身をボロボロにしながらやっているように見受けられます。

辛い思いをして治療をしても、結局は子供はできなかったという方も周りに多いですし、私の友人は、治療がきっかけで逆に病気になり、子宮・卵巣の全摘出で子供の産めない体になりました。

なぜ子供が産めない状態になっているのか、その根本を見ようともせず、ただホルモン剤やワクチン接種など、国は表面的なことだけを推奨しているのか。

簡単に言えば、(内臓が)冷えている日本人がとて多いこととで、子供が出来ない・産めない人が増えています。

温活という言葉だけが独り歩きして、ちゃんとしたやり方を知っている人も少ないということもあります。

薬（ホルモン剤・ワクチン含む）は体を冷やします。

普段食べているものには、当たり前のように添加物や農薬・除草剤成分等が含まれ、それらも体を冷やします。

とある妊活サロンでは、ホルモン剤を打つため（効きを良くするため？）に温活をしている、という本末転倒なことを言っているか方も多くいらっしゃいました。

昔の人は、不妊で悩む人はこんなにいませんでした。

何が違うかという、一番は食べているものが違います。

本来の土の力がたっぷり入ったお米やお野菜を食べることで、今の人よりも何倍もパワーがあり、子宮力も内臓の温かさも何もかもが高い状態でした。

あとはお風呂にちゃんと入っていたこと。

自宅よりも温泉が好ましいですが、しっかりと心身を温めることをしていました。

畑に種を蒔いても、気温が低かったり長雨が続きたりすると、発芽しなかったり、育っても途中でダメになったりします。

適度な温度と水分や養分、その条件が揃えば勝手に育ちます。

人もそれと同じです。

本来の産む力を高めるためには、何を食べるかとお風呂はとても重要です。

もし補助金を出すのであれば、

- ・ 自然栽培の農産物の購入費用
- ・ 温浴施設の利用料
- ・ 自然療法サロンの利用料

など、他にも色々あると思いますが、根本解決が望めることに出してほしいと思います。少子化対策の一番の土台はここだと考えます。

## 6-2 【秋田市、30代】

泉房穂前明石市長のような政策をするしか無いと思います。

むしろ、泉さんに監修・アドバイスして貰い

それを謳い文句にガツンと秋田を売り出して

県外への流出ストップ、出生率の上昇、景気回復と

狙って頂きたいです。

第二の明石市と言われるように。

秋田の負のループを止めるには、このような思い切った政策しかありません。

後戻りできませんよ。

話題になって魅せてほしいです、秋田を。

未来の絶望の秋田から、今すぐ救ってほしいです。

## 6-3 【三種町、40代】

出産の選択肢は分娩施設の集約化が進み限られてきています。

秋田市などは選択肢がまだありますが、県北部、県南部はそこしか産むところがありません。

一度帝王切開で出産すると次の出産方法を経膣か帝王切開か女性が選択できる病院もあれば、できない病院もあります。

誰もがその情報に辿り着けるわけではありません。それが問題なのです。

出産体験はその母子の人生を左右する重要なものです。

死ななければいいといったものではありません

各病院の帝王切開率、会陰切開率、和痛の手段の有無、逆子への対応、などの情報公開が必要だと考えます。また妊娠をした女性には私の担当さんといえる専門家がはじめから出産後一年位までいつでもなんでも相談できるような本当の意味での伴走ケアの実現は必須だと思います。

女性は子を産む機械ではありませんから、様々な支援をすれば少子化が止まる、そんな簡単な話ではありません。ですが現状はあまりに女性の権利が軽んじられています。その

結果、女性が本当の力を発揮できていない、傷ついている事によって、子どもを産み育てる希望を持ってないというのはあると思います。せっかく豊かな自然があるのですから、都会からお産留学、保育留学などに来てもらえるような環境づくりをする事が移住の促進にもつながります。そのためには女性がどのような結婚、出産を望んでいるのか皆で耳を傾けてみてはどうでしょうか？

#### 6-4 【秋田市、30代】

結婚減税、出産減税を行う。例として、住民税を結婚で1割、一人目出産で3割、二人目出産で6割、三人以上で全額免除する。度々独身税を導入したらいいのではないかという意見がネットなどで見られますが、結婚しないと負担が増えるではなく、結婚したら負担が減るという方向の政策の方が人心に合うと思います。

#### 6-5 【神奈川県、40代】

手取り20万円もいかない給料では、結婚はできても出産は不可能。

なんの手当もつかないパート・アルバイト、派遣、契約社員が大半になってしまった現代では家庭を持つなんて無理。

給料の底上げ、住宅補助、第一子からの祝い金支給、医療費完全無料化、保育園・幼稚園の無料化、育児にかかる経費の補助、自動車とベビーシートの購入補助（または無償貸与）。

または、それらの費用の無金利融資（実際には現金支給ではなく、専用の金券発行として不正利用を防ぐ）。

それくらい充実した支援がなければ、出産は候補にならないですね。

#### 6-6 【大仙市、30代】

突然メールを拝送することをお許してください。

いつもお世話になっております。ありがとうございます。

早速ですが、小林よしのり氏のよしりん辻説法シリーズやフランス、明石市や泉房穂さんの社会の変え方他を参考に結婚の希望を叶え、子どもを持ちたいと願う県民が安心して出産するために、どのような支援・施策が必要か。を考えると、

農牧林漁業他で低収入の老若男女が学業や病気になった時も安心できるように、累進課税の徴収を強化したり、企業から徴収するお金を増やしたり、個人に直接交付金が支払われるようにしたり、ギャンブル他依存症の治療の支援をしたり、小学生から性教育を学べるようにして性暴力がだめなこととか学べたり、紙おむつや高齢者向けの紙パンツやコンドームや生理用品、認知症の治療薬を毎月配達して虐待がないとか、家庭内暴力がないか確認したり、自宅までレンタカーを届けたり、あかちゃんを預けるところや、結婚や離

婚、養子縁組や養子縁組を簡単に解消出来たりできるようにしたり、産婦人科のある病院まで送り届けてもらえるタクシー券を配ったり、出産費用を無料にしたり、犯罪被害者の支援をしたり、加害者の社会復帰を支援したり、秋田県ならではの結婚のAIを活用したマッチングアプリがあると良い。と思いました。

以上、秋田県の皆さんの増々のご活躍ご健勝お祈り申し上げます。

## 6-7 【大仙市、60代】

秋田県の調査では、若い人の7割が結婚を希望しながら、出会いの場がないと答えているそうです。行政では「あきた結婚支援センター」や「結婚サポーター」などの施策を講じているようですが、効果はいかばかりでしょうか？

昔は、なかど(仲人)と呼ばれる世話好きな方々が地域におり、結婚適齢期の男女にはそれなりの見合い話がありました。社会情勢の変化からか、なかどさんはすっかり姿を消してしまいました。今は、結婚を希望していても出会いの場がない人は、自らマッチングアプリなどで婚活をしない限り、縁遠いのが現実です。「結婚サポーター」なりに一定の権限を持たせて、もっと結婚支援を強化すべきではないでしょうか？

少子化対策の観点からも、もっと婚姻数を増やす対策をお願いします。